

I 生活单元「ともだちをむかえよう」(さくら1・2組)

1 学習の概要

今年は、さくら学級に新しい仲間が増え、総勢13名になりました。そして、雁宿小学校区に在住していて、半田特別支援学校に入学した子どもたちとの「居住地交流」が、学期に1度行われることになりました。新学級づくりの真っただ中での初めての行事…、一体どんな活動ができるのだろうという手探り状態の中で、1学期の交流会は教師主導で行うことにしました。

1学期の交流会が終わったとき、子どもたちから「2学期も、交流会ができるんだよね。そのときは、こんなことがしてみたいな。」という声が聞かれました。そこで、2学期の交流会では、そんな子どもたちの思いを生かした活動をすることにしました。

自分たちで活動内容を考え、準備することで、交流会を楽しみたい、友達を楽しませたいという気持ちをもって学習に望んでほしいと考えました。

2 ねらい

- 支援学校の友達と、なかよく交流する。
- 支援学校の友達のことを考えて、交流会の計画を立てたり準備したりすることができる。
- 自分の係分担を意識して、交流会の準備や練習に取り組むことができる。

3 取り組み

(1) 2学期の交流会への見通しをもつ

1学期の交流会を振り返り、2学期の交流会でしたいことを考える場を設けました。1学期の交流会では、話すのが苦手な友達に話しかける形で、さくら学級の子どもたちが自己紹介を行い、走るのが好きだという友達に合わせて、しっぽとりで遊び、宝探しゲームで用いた折り紙をプレゼントしました。その観点から、①してみせる活動②一緒に遊ぶ活動③会えてうれしいという気持ちを伝える活動を取り入れることを押さえ、その上で、子どもたちが交流会でしたいことを話し合い、もとになるアイデアを出しました。



1 学期の交流会

(2) 交流会に向けて自分の係を決める

全員から出たアイデアをもとに、「してみせる活動」はさくら2組児童が、「一緒に遊ぶ活動」はさくら1組児童が、それぞれ準備・計画を進めることになりました。

(3) 計画や準備をする

① 1組の活動

1組では、ソーシャルスキルトレーニングの一環で、遊びの学習に取り組んできました。それまでに経験した遊びの中から、迎える友達と一緒に遊べそうなゲームとして、「新聞棒投げ」を選び、みんなが楽しく遊べるルールを決めました。また、2組の児童から出た意見の中から、「もうじゅうがり」を選び、この2つの遊びの準備をしました。

② 2組の活動

2組では、迎える友達が喜んでくれて、1組の児童にもできる活動は何だろうということで話し合いをしました。その結果、手作り楽器で合奏をするというアイデアがまとまりました。誰でも簡単に作れて演奏できる

楽器を、子どもたちがインターネットで調べ、ベル、ギロ、マラカス、カスタネットなどいろいろな楽器を手作りしました。そして、1組の児童に演奏の仕方や作り方を教えることができるように、準備や練習にも取り組みました。

(4) 発表の計画をみんなで共有し準備に取り組む

それぞれの学級で準備を進めてきたことに、全員で取り組んでいけるよう、お互いに伝え合いました。

まずは、2組の児童が、「ジングルベル」の曲にのせて、手作り楽器の合奏を1組の児童に発表しました。その上で、いろいろな楽器があることを知らせ、1組の児童が選んだ楽器の作り方を教えました。そして、全員で合奏を楽しむことができ、全員が発表の見通しをもつことができました。

次に、1組の児童が、遊びの計画を2組の児童に伝えました。遊び方や遊びのルールを確かめ、さらに工夫すると良い点について、話し合うことができました。遊びの仕方確かめ、全員でゲームをしました。

(5) 交流会をして、活動を振り返る

12月に交流会を行いました。迎える友達が、2週に分かれて来校することになり、交流会も2度行いました。1度目は、高学年児童が中心になり、司会やあいさつ、ルールの説明や遊びのリーダーになり、会を進めました。2度目は、高学年児童が交流学习で不在だったため、1・2年生で友達を迎えました。高学年児童がしていたことに倣い、1・2年生が役割を分担して、楽しく交流会を行うことができました。

自分たちが中心になって計画・準備し迎えた交流会は、1学期とは比べものにならないほど充実した会になりました。



何ができそうかな？



合奏してみよう！

プログラム

- 1 はじめの言葉
- 2 「ジングルベル」の合奏
- 3 新聞棒投げ
- 4 もうじゅうがり
- 5 みんなで「ジングルベル」を合奏しよう（手作り楽器のプレゼント）
- 6 おわりの言葉



「ジングルベル」の合奏



新聞棒投げ



もうじゅうがり

4 成果と課題

同じ活動であっても、教師主導で行う場合と、子どもたちの思いから行う場合とでは、子どもたちの達成感に違いがあることを実感させられました。しかし、1学期の活動があったからこそ、2学期の活動に見通しがもてたことも確かです。

2学期の2度目の交流会を低学年中心でも行えたように、スモールステップを心がけながら、子どもたちに任せる姿勢も大切に、今後の学習を組み立てていかなければならないと感じています。